

第14回感謝の夕べにあたって

プロへの道

弁護士 中園 繁 克

皆さん、今晚は。本日はご多用中のところ、ご来臨を頂き有難うございます。この感謝の夕べも、早や14回目を迎えることができました。これも、皆様お1人お1人の平素からのご懇篤なるご指導、ご支援のお陰でございます。当事務所のメンバー一同、心より深く感謝申し上げます。

さて、今日、科学技術が進歩し、ますます社会が高度化し、複雑化し、グローバル化してまいりました。この中で、これに対応することのできる高度に専門的な人が、必要とされてくるようになりました。かつて、日本では職人、玄人（くろうと）、匠（たくみ）、名人などといわれた人たちです。この人たちは、技術的に長け（たけ）ているというだけではなく、その道において最高の境地に至った人という含意もあります。

このように、その職務に透徹した人、その道を極めた人という意味も含めて、ここでは今様（いまよう）に、プロと呼んでおきたいと思います。

ではここで、真のプロと言われた人たちの仕種（しぐさ）をたどってみましょう。

私は大学時代、剣道部に身をおいていました。師範は、今はなき斎藤正利先生でした。昭和30年後半のころ、先生は剣道八段範師でおられました。年に1度、全国から剣道の先生方が京都に集って、演武大会が行われていました。この演武大会は、多少お祭り気分のところもありました。しかし、斎藤先生が演武のため、道場の中央に進まれますと、これまで騒然としていた数百人の観衆が、しーんと水を打ったように静まり返りました。斎藤先生の剣道の師範としての存在感が、観衆の皆を釘付けにしてしまったのです。

またあるとき、私が、斎藤先生のお伴をして、市内を走る電車（市電）に同乗していた時のことでした。女性の車掌さんが、はげしく揺れて走る電車の中を、お客さんの切符を切り乍ら、あた

かも揺れの無い平地を歩くような身のこなしで、歩いて行ったのです。これをご覧になって、斎藤先生は「みごとだね。あれは剣道に通じるものだよ。」とぼつりとおっしゃられました。いまだに私の耳にそのお言葉が、鮮明に残っております。私は学生時代にプロの生き字引を拝することができたことを、とても幸せに思い、感謝申し上げます。

また、大阪に住み将棋の天才とうたわれた坂田三吉(1878-1946)を、ご存知のことと思います。歌手・村田英雄の歌う「王将」の主人公でもあります。坂田がある日、ふところ手をしながら散歩をしていました。近所の奥さんが井戸端会議をしている傍を通りかかりました。たわいもない井戸端会議の話をふと耳にはさんで、坂田はつぶやきました。「あ、銀が泣いている。」と。これは、将棋の世界では、銀将という駒(こま)が機能しておらず、遊び駒となっているというほどの意味です。坂田は、たとえ世間話ひとつでも、自らの本業である将棋の「指し手」に翻訳し、これを活用してしまうのです。ニュートン(1642-1727)が、木からりんごの落ちるのを見て、万有引力の法則を発見したのに似ています。偉大な人は、万人、万物を師とするものですね。

また、明治維新の志士たちを育てた吉田松陰(1830-1859)は、優れた教育者としても知られています。松陰は獄中であって、その獄吏(ごくり)や囚人たちを感動させ、長所を見出し生きる勇気を与えたといえます。自らの生命の危ぶまれる獄中であって、絶望にうちひしがれた人のつながれている獄舎を、福堂(幸福なところの意)に変えようと真剣に努力したといわれています。随所(ずいしょ)に主(しゅ)となって生き切ることの極みか。

また、合気道十段で、この道の最高峰の1人である藤平光一という方がおられます。この方は、天の気と自分の気を合わせるところが、合気の理(ことわり)であるとされています。藤平はその著作の中に、東北の猪(いのしし)狩りの名人の話を記しています。この名人は、鉄砲で猪(いのしし)を狙ったら、百発百中で1度も失敗をしたことがないということです。なぜそんなことができるのでしょうか。名人曰く、「鉄砲をその猪に当ててから、引金を引く」。これは、まず、鉄砲から発射される銃弾を、めざす猪に命中させておいて、それから始めて引金を引くという意

味でしょう。これなら引金を引くとき、銃弾はすでに弾道を描いて猪に当たっているのですから、銃弾が外れることはありませんね。目標に至るまでの全ての条件を読み切った、達人ならではの見事な技（わざ）です。

また、プロ野球の選手イチローは、けしてめぐまれているとは言えない体で、アメリカの大リーグでよく活躍をしています。口数少ないイチローですが、次のような言葉が伝えられています。「私は、常に今日、自分の力を出し切ってプレーしています。そして、また、明日のために万全の準備をします。」と。すでに、普通のプロより抜きん出ているイチローですが、このように野球に徹し切った信念があれば、さらなる大選手への成長が楽しみです。

さて、プロ中のプロと言われる5人の方々の仕種（しぐさ）をみてきましたが、私たちがプロを目指すに当って、どんな心構えが必要なのでしょうか。

好きこそものの上手なれという諺（ことわざ）がありますね。先人たちも、プロの道の第一歩として、まずその仕事を心から好きになることだといえます。嫌々やっていたのでは、そのことに身が入らず、技量も伸ばすどころではないでしょう。よく英語は嫌いだが、歌なら大好きだという子がいたら、しばらく英語で歌をうたって遊ばせろといわれます。そうすれば、いつの間にか英語に興味をもててくるし、自然に英語も好きになっていくといわれます。

しかし、好きだけでやっているのと、力（りき）み過ぎたり、飽きがきたりします。このようなりアクションがきて、壁に突き当たります。それを打ち破るには、そのことを楽しんでやる心境に至ることが、必要といわれています。さらに、その仕事を靄然（あいぜん）として行えるようになれば、名人の境地でしょう。

私たち関東法律事務所一同も、法律事務についてのプロを目指し、先達に学び、お互いに切磋琢磨し合いながら、皆様のご要望に適確にお応えできるように精進したいと思います。

関東法律事務所は、後掲の図表のとおり、人間性尊重と社会環境適合と自然環境適合という3つの土壌のうえに、基本的人権の擁護と社会正義の実現のために、最高の業務を、最善の方法で、

最良の時宜に、最適の報酬で案件処理を行い、依頼者の皆様に安らぎ、潤い、ほほえみ、希望そして勇気を提供申し上げられるよう尽力してまいる所存です。今後とも、当事務所への暖かいご支援と、厳正なるご叱正を賜りたく、所員一同、心よりお願い申し上げます、重ねて本日のご来駕を感謝申し上げます。

平成 15 年 (2003) 7 月 9 日の夕べ